

令和5年度学校安全総合支援事業「全国成果発表会」

学校を中心とした防災教育

大分県 玖珠町教育委員会
教育長 梶原 敏明
指導主事 佐藤 信昭

「地域と学校が連携した 地域防災の力



「学校とともにある 地域づくり」につなげる

参考文献: 京都大学大学院地球環境学堂 (IEDM) 研究室、文部科学省、東北3都市、近畿3都市他が参加した
「災害に強い学校および地域づくり」でのディスカッション論議の取りまとめを参考とし、全シートを編集・作成
「高知県安全教育プログラム」を参考に作成

防災教育の視点 「自助・共助・互助・公助」



知る



備える



行動する



正しい知識と技能を身に付けておかなければ、いざという時に的確な判断ができない。

正しい知識を得て、どんな備えが必要かを考え、日頃から準備しておく必要がある。

頭で理解しただけでは行動に結びつかない。訓練でできないことは本番でもできない！

確認(知る)・備える

行動する

豪雨・台風災害

【豪雨をもたらす気象現象】

- ・積乱雲(線状降水帯)による局地的な豪雨
- ・台風がもたらす大雨

【豪雨や台風による災害】

- ・河川の増水、氾濫による洪水、道路、家屋の浸水予測個所の確認
- ・台風による暴風を想定した安全対策を考える

【過去に発生した重大な災害】

- ・過去に地域で起こった豪雨や台風による災害を知る

【日頃からの備え】

- ・非常用品の準備(懐中電灯・電池、ラジオ、食料、水等の確保)
- ・避難所や避難方法等について家族全員で確認しておく

【災害の前兆を知る】

- ・河川や水路の増水に注意し、ただちに水辺から離れる(河川の増水の状態等の異変に注意、ダム of 放流の警報等)
- ・下流部で晴れていても上流地域の大雨による急な増水もある

【情報の収集と適切な判断・避難】

- ・注意報・警報・特別警報の意味を正しく理解し、適切に非難する
- ・避難勧告や避難指示があった場合は、慌てず速やかに避難する(忘れ物しても戻らない)外へ出ることが危険な場合は、家の2階等少しでも安全な場所へ避難する
- ・台風が遠くても、高波や高潮に備え、海での活動は控える

土砂災害

【豪雨や台風、地震による災害】

- ・土砂災害(がけ崩れ、地滑り、土石流)の特徴を知る
- ・自分が住む地域に発生が予想される危険個所を知る(土砂災害危険個所ファザードマップ等で確認)

【過去に発生した重大な土砂災害】

- ・過去に地域で起こった土砂災害を知る

【土砂災害から身を守る】

- ・土砂災害の前兆現象がみられたら、ただちに非難する(近所や役場への通報)
- ・雨量や大雨警報、土砂災害警戒警報に注意し、早めに安全な場所に避難する

雷

【雷による災害】

- ・雷は周りより高い場所に落ちやすい(周囲が開けた場所は危険)
- ・木や電柱等落電を受けた物体からの放電を受ける(側撃雷)

【雷から身を守る】

- ・雷鳴が聞こえたら、建物や自動車等の中へすぐに避難する
- ・木や電柱から4m以上離れる(側撃雷の恐れがある)

大雪

【大雪による災害】

- ・積雪、路面の凍結等による交通事故の発生
- ・歩道等の凍結による転倒事故等

【大雪から身を守る】

- ・気象情報を活用して積雪や凍結を予測し、転倒しにくい歩き方や車の移動の際にスリップしないよう注意する

主体的に自ら考え・判断して行動する力＝〈とまる〉〈みる〉〈たしかめる〉〈まもる〉安全行動力

1 交通安全の基本

- 【歩行時の安全】
 - ・安全な道路の歩き方を知る
 - ・安全確認の仕方
「とまる」「みる」「たしかめる」
確認行動がとれる
 - ・安全な横断の仕方ができる
- 【自転車乗車時の安全】
 - ・安全協会指導の自転車利用を守る
 - ・車道では左側通行を守る
 - ・歩道は歩行者優先、車道夜を徐行
 - ・安全ルールを守る
 - ・子どもはヘルメット着用
- 【二輪車・自動車乗車時の安全】
 - ・安全な乗り方ができる
 - ・シートベルトの着用

2 交通状況への判断力・適応力

- 【危険予測と回避行動】
 - ・危険な場所、行為を確認する
 - ・危険を予測し、回避する
 - ・飛び出さないために考える
- 【交通事故の実態】
 - ・交通事故の特徴を知る
歩行者・自転車事故の典型パターン
 - ・交通事故の要因を知る
交通事故の原因の多くが「安全確認」の不備であることを知る
- 【交通ルールの遵守と交通マナーの向上・徹底】
 - ・交通ルール、交通マナーの必要性を理解する
 - ・標識、標示の意味を知る

3 行動計画の力

- 【目的地までの安全な通行】
 - ・自分の交通行動＝歩行の仕方、自転車の乗り方等が安全かどうか自己理解する
 - ・感情のコントロールをする
イライラや悩みなどのストレスとうまく向き合う
 - ・気持ちを切り替える方法を考える
 - ・仲間と一緒に移動する時の危険(おしゃべりによる不注意、並走等)を考える
- 【行動を計画する】
 - ・安全通行できる行動計画を考える
10分前行動を心掛け、目的地までの安全なルートを考えて行動する

4 社会生活の力

- 【地域の交通安全への貢献】
 - ・小さい子どものお手本になる交通行動
 - ・守られる立場から守る立場へ
 - ・他者の視点を知り、他者への気遣いの大切さを知る
- 【交通事故への対応】
 - ・負傷者への安否確認
 - ・周囲の安全確保
 - ・110番、119番への通報
 - ・応急手当の実施
 - ・交通事故の責任と補償
自転車でも加害者となる場合があることを学ぶ

「自己理解」自己の行動を振り返り、安全のための行動目標を設定し、実行していく

1 交通行動の基本 2 交通状況への判断力・適応力

3 行動計画の力 4 社会生活の力

低学年

中学年

高学年

中学校から高等学校そして社会人

外傷から身を守る

1 けがや事故を防ぐために

【学校生活の安全】

- ・道具や遊具等の正しい使い方を知る
- ・道具を使うときは周囲の安全に気を配る
- ・廊下や階段の正しい歩き方を守る
- ・雨天時での過ごし方を考える
- ・行内では上履きをきちんと履く
- ・学校の中の立ち入ってはならない場所を知り、ルールを守る

【運動時の安全】

- ・運動時は自分の体調に気を付け、無理をしない
- ・プールや体育館、運動場での運動の仕方や器具の使い方を知り、安全に行動する

【熱中症の予防】

- ・熱中症が発生しやすい状況を知る
- ・体調管理や適切な水分補給など予防に必要なことを知る
- ・熱中症の症状と応急手当の方法を知る

【危険な場所や遊びについて】

- ・川や海、山、池等での危険を知る
- ・気象の条件によって発生する危険を知る
- ・動植物に起因する危険を知る
- ・火気を使用する場合の危険を知る

【応急手当等について】

- ・けがの種類と介助、通報の仕方を知る
- ・止血法、心肺蘇生法等の応急手当を知る
(理論と実技 速やかな119番への通報AED手配)

犯罪から身を守る

2 犯罪被害にあわないために

【登下校時の安全】

- ・できるだけ友達と一緒に登下校する
(一人になる時間を短くする)
- ・防犯ブザーや防犯の笛の使い方を知る
- ・登下校時に見守ってくれる地域の人を知る
「学校安全ボランティア」
「スクールガード・リーダー」等

【校内での不審者への対応】

- ・学校が定めた「不審者侵入時の緊急放送や(合図)」を知る
- ・不審者侵入時の避難の仕方を知る
- ・指示をよく聞き、落ち着いて迅速に行動する

【校外での不審者への対応】

- ・自分の身を守るための約束を守る
- ・地域の危険な場所(入りやすく、見えにくい場所)を知る
- ・危険を感じた時に逃げ込む場所を知る
- ・事件や事故に遭遇したらすぐに家族や学校に連絡する(速やかな110番通報)
- ・地域における犯罪等の情報を知る

3 家族で守る安全

【家族との約束】

- ・出かけるときには行き先、帰る時刻を家族に伝えておく
- ・留守番をするときの約束を確認する
- ・友達の名前や電話番号を知らない人から聞かれても答えない
- ・夜間の外出で注意することを確認する
- ・夜間は一人では外出しない
- ・周囲の状況を確認しながら注意して歩く
- ・携帯電話を操作しながら移動はしない

4 地域社会の一員として

【自分たちで守る地域の絆】

- ・地域の人とのつながりを大切にする
- ・地域・社会生活の安全を守る機関や地域の防犯活動を知る
(警察署、消防署、自主防犯組織、防犯パトロール、健全育成会、安心メール等)
- ・地域の安全を守るために、自分たちにできる役割を考える

学校と連携した 地域の防災教育

～学校・地域・家庭それぞれの立場から～

学校と連携した防災教育がどうしても必要なの 地域で防災訓練をやればよいのでは？

- ☆公立小中学校は、**地域において重要な公共施設**として、災害時には避難所等の役割を果たしている。
- ☆**災害時に施設を学校と地域が共有する**ということは、**平常時から地域と学校、学校と保護者が関係性を構築しておく必要がある。**
- ☆そのためには、学校教育における児童・生徒への防災教育だけでなく、**地域と学校、保護者が日ごろから常に防災に対する知識や情報の共有を図って、連携・協働の取組が出来るようにしておくことが重要である。**

学校教育の視点から

☆ 学校における児童・生徒への防災教育は、学校敷地内に滞在しているときだけでなく、登下校時、地域で遊んでいるとき、自宅に戻るときにも自らの力で判断し行動する力が備わるように培うことを目指す必要がある。 ← 小・中・高との各学校段階の連携した防災教育カリキュラムが必要！



通常の授業通じて培われる聞く力、生きる力、考える力は、災害を生き抜くための力となり災害時に思い込みではなく自ら状況を判断し、行動する力につながる。



そのためには

【自分の命は自分で守る】防災教育の根幹

学校は家庭に対して学校教育における防災情報を伝え、家庭内において、保護者と子どもが一緒になって防災についての話し合い・考える機会を持つよう促すことが必要である。

災害時の状況は、地域の特性に応じて変化する。そのため、普段から地域を知るということは、目に見える物象を知るだけでなく、地域内の社会的なつながりや地域の成り立ちや歴史を知ることも重要である。この社会的なつながりは、災害時の自助・共助・公助の土台となる。 ← 人的インフラとなる。

教職員の視点から

☆児童生徒の安全を確保するという任務を担っている。



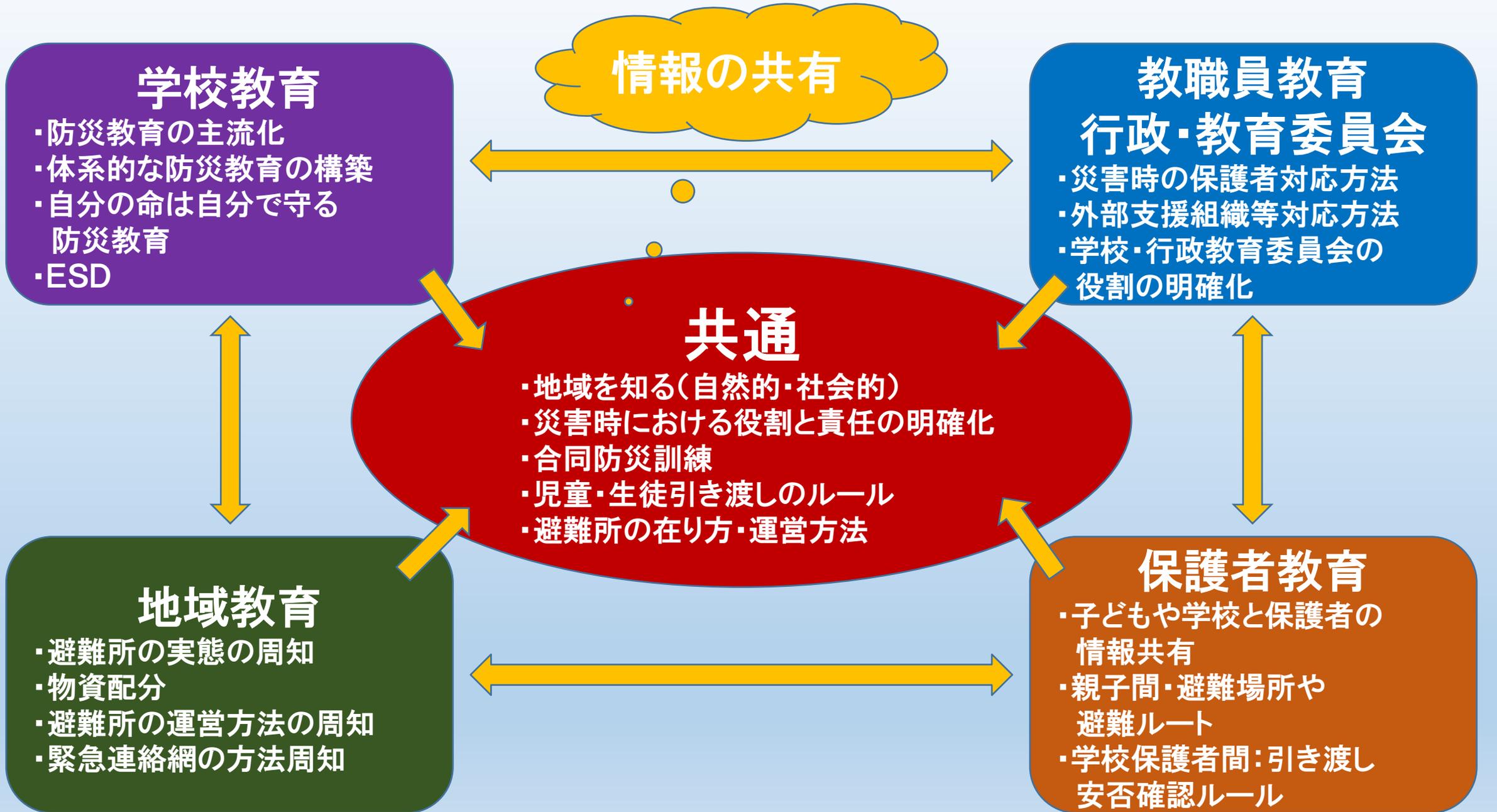
地域における**公共施設の管理者として地域との連携**が求められる。



学校が避難所になった場合には、地域からの避難住民の受入れや避難所運営、学校再開等の課題が発生する。

そのためには

学校教育の視点と同様に、また、**地域を知ることが必要**児童・生徒の安否確認、保護者対応、外部支援組織対応、マスコミ対応など、児童・生徒の安全を確保し、**学校と地域を結ぶ重要な人材として**、また防災教育の担い手として求められる。



防災教育モデル実践事業

北山田小学校を拠点校とした取り組み

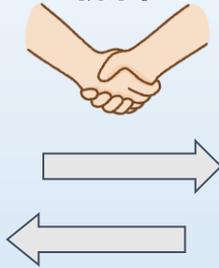
2 事業目標

児童生徒が自然災害等の発生に伴う様々な危険についての理解を深め、自らの安全を確保するための意思決定や行動ができるよう、拠点校を中核として、先進的・実践的な防災教育の手法や地域連携の在り方等を研究するとともに、モデル地域内全ての学校における発達段階に応じた防災教育(安全教育)の改善を行う。

北山田小学校



協働



地域・学校運営協議会 (CS)

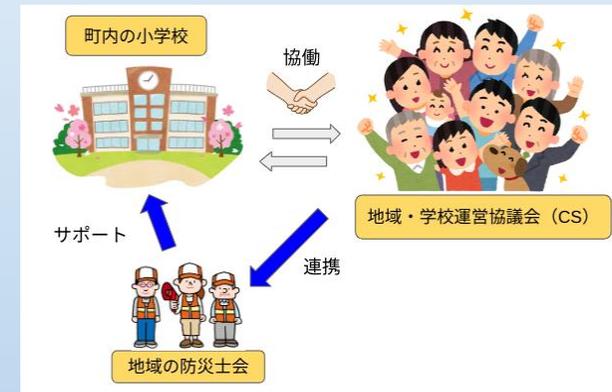
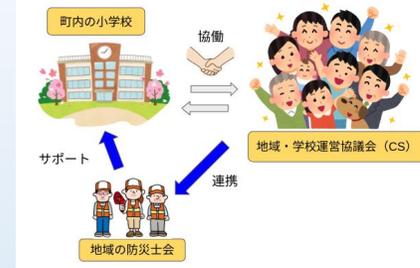
拠点校

サポート

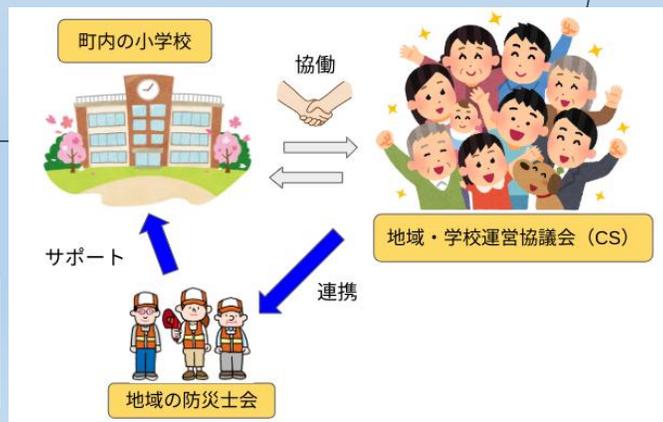


地域の防災士会

連携



モデル地域全体で



防災教育の深化・防災意識の高まり

3 事業概要

玖珠町は地形的に山地やがけ地・起伏斜面が多いため、地震や風水害等が発生した場合には**がけ崩れや斜面崩壊の危険性が高い地域**である。その中で、**北山田小学校区**は、谷沿いに家々が立ち並び、**昔から土砂災害や河川の氾濫による水害等が繰り返されてきた歴史**をもち、防災体制の整備や防災教育のより一層の充実が求められる地域である。





令和2年7月豪雨
(北山田小学校区)

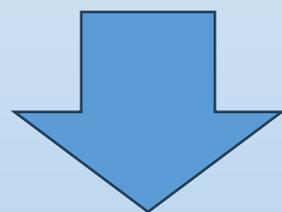
- ① 町内**全ての小中学校**に**防災教育コーディネーター**を位置づけ、**防災教育や学校安全に関する研修を組織的・計画的に行う。**
- ② **被災地・先進的実践校**（推進体制が構築されている地域や学校）の**視察**や、学校間の系統性を意識した**学校安全計画や年間指導計画**についての検討会を開催するとともに、**各学校において計画の見直し・改善**を行う。
- ③ **避難訓練や引き渡し訓練等、学校の安全管理体制構築のための研究**を行う。
- ④ **地域の防災士と連携した防災授業の研究**を行う。

- ⑤ 拠点校以外の小中学校においても、拠点校の取組を参考に、防災授業や校内研修、より実践的な防災訓練などを実施する。
- ⑥ 有識者等の専門的知見からの指導・助言を受けながら避難訓練や危機管理マニュアルについての見直し・改善を行う。
- ⑦ 委託事業終了後も、町内の全ての小中学校において次代の安全文化の構築に取り組む。



拠点校での取り組み

- ①先進的・実践的な防災教育の手法を研究する
- ②地域連携のあり方を研究する
- ③発達段階における防災教育の改善を行う



- 様々な危険について理解を深める
- 災害時に意思決定や正しい行動ができる

実態

- ・災害の知識
- ・想像力
- ・危機の感知能力
- ・経験・研修不足
- ・学校（防災拠点・避難拠点） ・教師の役割への理解



課題

訓練のための訓練

実践（体験を通じた学び）不足

取組①

先進的・実践的な防災教育の手法の研究

A 先進地視察（広島市立梅林小学校）

B 避難訓練の改善

C 職員研修

A 先進地視察 (広島市立梅林小学校)

災害時における学校対応の実際 ～避難所運営・授業再開の過程から～

広島土砂災害 (平成26年8月20日)

| | | | |
|--------------|-------------|------|-----|
| 広島市の犠牲者 | 77名 (当時74名) | | |
| 負傷者 | 44名 | | |
| 家屋破損 | 429棟 | | |
| 家屋浸水 | 4111棟 | | |
| 梅林学区の犠牲者 | 67名 (当時65名) | | |
| 本校児童の家屋の被災状況 | | | |
| 全壊 | 3名 | 半壊 | 10名 |
| 床上浸水 | 14名 | 床下浸水 | 68名 |
| 土砂流入 | 55名 | | |



授業再開に向けて

再開の条件：全ての子どもが100%安全に登下校できること

| | |
|---------|--|
| 8/27・28 | 児童の状況把握 |
| 28 | 通学路再点検・施設課来校 |
| 29 | 教育委員会来校 状況説明 激励 |
| 30 | 授業再開に向けたスケジュールの案案が送られてくる |
| 31 | 授業再開に向けた意見交換 (学校運営アドバイザー PTA会長 社協会長 校長) |
| 9/1 | 通学路点検 (4回目) |
| 2 | 健康教育課より通学路の点検 教育長来校。通学路視察 |
| 3 | 100%の安全が確認できていないとの指摘 避難者への説明会 (対策本部) |
| 3 | 通学路点検 (健康教育課・警察OB) |
| 4 | PTA・子ども会 (輔導部)・健康教育課・学校での意見交換 最終の電話確認 (児童の状況把握) |
| 5 | 通学路について・学校再開に関するメール配信 |
| 7 | 関係者ミーティング |
| 8 | 約700名のボランティアによる校舎・校庭の整備・教室の消毒・清掃 学校再開 |

校長として

- ① 状況の打開・前進
- ② 連絡・相談・意思表示
- ③ 思いの共有
- ④ 状況の共有

避難所において梅林職員が行った主な仕事

- ・教室の整備 (避難場所の確保)
- ・物資の搬入・移動・整理 (いろいろな所から必要以上に届く)
- ・弁当・食料等の配布
- ・踏切からの車の誘導・交通整理
- ・校内の車の誘導
- ・教室にいる避難者の名簿作成
- ・廊下階段・便所の清掃・足拭き雑巾洗い
- ・ごみの管理及び処理
- ・安否確認の電話対応
- ・諸連絡・放送・消防・自衛隊・医療関係・教育委員会・報道機関等の対応
- ・6日後運営の全てが学校の手から離れる (管理職宿泊勤務7日間)

○被災状況により、避難所開設や運営の体制等にも違いがある。

○災害が起こるまではマニュアルはあるものの自主防災会としての災害時の体制が機能していなかった。

梅林小学校の防災教育

防災意識を高めること、防災技能を習得することを通じて、この地域で豊かに生活すること、そのために貢献する社会人を育成すること

経験や思い・願いを つなぐ

伝え合う力→「話す・聞く力」「書く力」の育成

防災意識が高まった きずな

防災学習は
ふるさと学習

地域とともに成長し、主体的に生きていく社会人の育成

B 避難訓練の改善

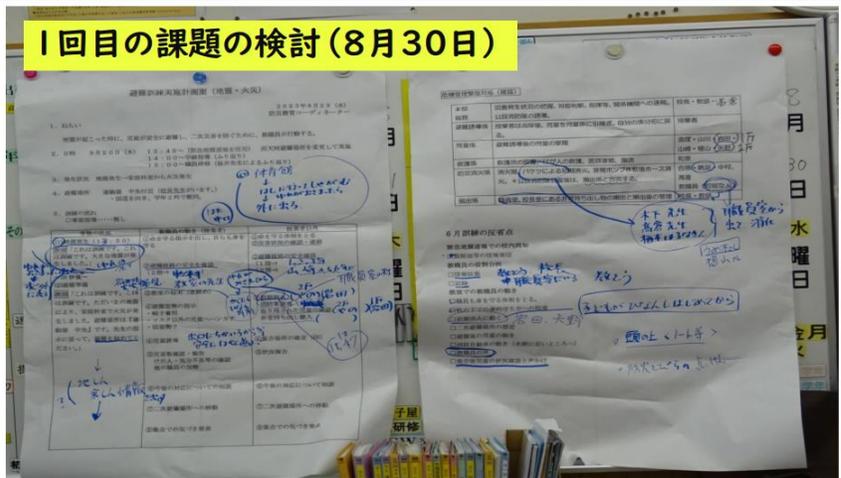
避難訓練の課題（板井先生からの指摘）

- ・教員が傍観者 ⇒ 児童が行うシェイクアウトを指導できていない
- ・教員の声が出ていない
- ・最低限の非常持ち出し（応急手当用バック等）
- ・家庭科室より出火したが、消火のタイミングが遅い
⇒ 現場に消火器を持参すること
- ・放送後、追加の情報収集を行っていない
⇒ 地震想定が架空のものとなっている
- ・児童・教職員が集合できたら、職員は管理職の下に全員集まり情報共有
- ・緊急地震速報の活用
- ・詳しい地震情報の収集と周知
- ・行動記録



避難訓練はだれのためのものですか？

1回目の課題の検討(8月30日)



より現実的な内容を検討し
職員一人ひとりの動きを相談



実施

・13時45分 大分県中部を震源とする震度5弱の地震発生 | 階校舎東側 | 番奥より出火からの避難実施



先生も避難



避難経路の確認



2学年分いっしょに避難



初期消火へ

C 職員研修 (講師:大分大学防災・減災センター板井先生)



板井先生による研修会



児童の自宅周辺の調査（夏期休業中）

計画

- ・学級児童の自宅周辺の調査
- ・危険箇所の把握
- ・地図への記入（教材に）

実施

- ・夏期休業中

検証

- ・土砂災害の危険度が高い
- ・保護者・児童の意識？（車での移動がほとんど）

取組②

地域連携のあり方についての研究

○地域防災アドバイザー

○防災士会

○関係機関 (警察・消防・基地防災課)



取組③

発達段階に応じた防災教育

低学年

○学校の周りの安全と危険

- ・台風や豪雨の時に、水があふれる
- ・早めに避難する
- ・命を守る3つの約束
- ・避難場所を知る
(お家の人と話して決める)





身を守るだんご虫の
ポーズ



危険だと思ふ場所には赤○をあげる

取組③

発達段階に応じた防災教育

中学年

○災害に備える

- ・災害時に安全な場所に避難する
- ・避難に必要なものを考える
- ・命を守る3つの約束
- ・避難場所を知る(お家の人と話して決める)



グループごとに避難する際に必要なものを選ぶ

防災グッズを詰め込んだ鞆を背負ってみる。重さを実感し、ある物を代用したりシェアしたりすることに気づく



グループで選んだものを発表。家族の構成員によって必要な物が違うことに気づく



取組③

発達段階に応じた防災教育

高学年

○防災意識を高め、避難をイメージする

- ・防災散歩で危険な場所を知る。
- ・ハザードマップ作りで整理する。
- ・命を守る3つの約束
- ・学びを発信する。



高学年

○タイムラインを作成し避難に備える

- ・いろいろな自然災害を知る。
- ・自分の家の災害リスクを知る。
- ・警戒レベルを知る。
- ・タイムラインを作成して避難への意識を高める。
- ・命を守る3つの約束
- ・学びを発信する。



防災新聞 ~合同新聞の方の指導~



勉強したよカード

べんきょうしたよ

なまえ

ぼうさいの人ときけんやいばしとあんぜん
なばしをみつけました。いばしのおやくそ
くをまいにちしてます。いばしは朝
ごはんをしっかりとやるのと、いばし
は、くつをしっかりとそろえた、まい
にちしてます。これがウチの家族をまくらをとにまいたいです。



おうちの人から

防災について、しっかり勉強したようですね!!

「命を守るための約束」を子供から教わり私も心がけようと

思いました!! 防災授業の後から靴をしっかりとそろえて感心しました!!

地域・保護者へ

防災講話



参加者の感想

東日本大震災の映像や被災者のお話
に胸が痛みました。各地で多くの災害
が起きており、他人事ではないと感じま
す。災害に遭った時、私は子どもを守る
ことができるだろうか、困っている人に手
を差し伸べることができるだろうかと思
えると、日頃の行いが大切になってくる
と思いました。災害に備え、自分ができる
ことから始め、継続すること、家族の時
間は当たり前ではないということなど、
今回の防災講話で気づくことができ、感
謝しています。

まとめ

- 体験を通じた(楽しい)学習
- 知災(自分たちの地域を知る)
- 備災(災害に備える意識・心構えをつくる)
- 連携による広がりと深まり
- 子どもをメッセンジャーに





各学校における見直しの視点

- 危機管理マニュアル・組織体制の見直し・改善
- 教職員の共通理解・危機意識の向上
- より実践的な訓練の実施(本気の訓練) ※教職員の訓練という視点
- 学校外のかも借りて(防災アドバイザー・警察・消防・防災士 等との連携)
 - ・地域の防災士さん
 - ・専門家の指導・助言
- 保護者・地域への情報発信・啓発・連携